

令和6年6月号

一宮町の歴史特集

— 関和知没後100年 —

綱田の歴史と関和知

【第3回 綱田村の歴史 ②近世】

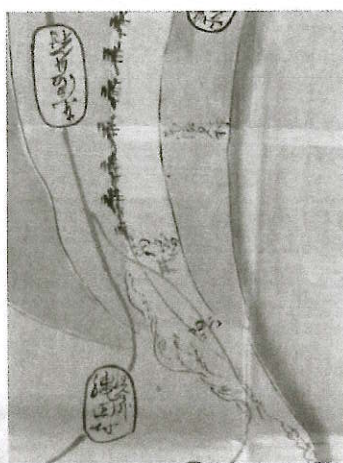
寛政5年(1793)頃の上総国  
の村の様子を記した「上総国石高帳」  
〔房総叢書 第9巻 系譜及石高帳〕  
(1942年)所収)によると、綱田

村は石高が約340石、戸数が57戸と  
なっています。領主として岡部主税、  
篠山十兵衛、高林弥十郎、土方八十郎、  
興津内記、服部市郎右衛門の名前がみ  
えます。江戸に近かった現在の千葉県  
域にあたる安房国・上総国・下総国は  
旗本の領地が多く、相給支配(一つの  
村に複数の領主がいる状態)の村が多  
い地域でした。綱田村もこの例に漏れ  
ず、江戸時代中期で5人の領主がいた  
ことになりました。

江戸時代の綱田村では隣村である椎  
木村(現いすみ市)との間で「水」や  
「村境」をめぐる争論が起こっていま  
す。綱田区が所有する古文書の中に延  
宝4年(1676)の溜井(溜池)を  
めぐる争論、元禄13年(1700)の  
村境をめぐる争論の絵図が残されてい  
ます。農業にとつて水は欠かせないも

のであり、溜井の水をどこの村のどの  
水田に引くのか、その溜井はどこの村  
のものなのか、など、全国的に争論の  
対象となっていました。村にとつても  
村や村の人々の生活に直結する事項の  
ため、こういった争論の記録はのちの  
ちのために保管され、現在に伝わって  
いるケースが多いです。

ちなみに綱田区では例年1回、区が  
所有する古文書を虫干ししています。  
このように手入れが代々行われてきた  
ことにより、現在に貴重な古文書が伝  
わってきたことになりました。



▶天保8年(1837)の「御国絵図」

(町教委所蔵)の一部。下に「縄(綱)  
田村」、その北に「東浪見村」がみえ、  
中央に「釣ヶ崎」と鳥居が描かれて  
います。

【問合せ】教育課 ☎(42) 1416

(学芸員 江澤一樹)

令和6年7月号

一宮町の歴史特集

— 関和知没後100年 —

綱田の歴史と関和知

【第4回 綱田村の歴史 ③近現代】

明治時代に入ると綱田村を取り巻く  
環境も大きく変化します。昭和前半ま  
での主な事柄を、年代順にみていきま  
しょう(以下西暦表記)。

1870 綱田地域の三ヶ寺が廃寺と  
なったという(『ふるさと』  
1981年)。

1873 綱田小学校開校。

1876 綱田小学校校舎新築。

1879 綱田出身の関五郎右衛門、  
県会議員に選出される。

1888 東浪見村と綱田村が合併、  
新・東浪見村誕生。

1893 綱田の関宗助、梨苗を植え  
増殖を図る。東上総の梨栽培  
の始まり(※)

1901 綱田小、東浪見小に合併

1928 天皇陛下へ綱田の梨が献上  
される(献上梨)。

1945 終戦。

1953 東浪見村と一宮町が合併、  
新・一宮町誕生。

1954 船頭給が分村編入。

1955 新地、宮原が分村編入。

↓ 現在の一宮町域へ

明治時代の大きな変化は、合併によ  
る行政区画の変更、それに伴う学校の  
統合などが挙げられます。

また、特産品でもある梨栽培開始も  
大きなトピックといえます。『全国青  
果生産者全国著名問屋案内』(丸共商  
会、1925年、国会図書館デジタルコレク  
ション)に現在の一宮町域  
では唯一、関宗助の梨が掲載されてい  
ます。

このような地域に生まれた関和知は  
どのような人生を過ごしたのか。次回  
から見ていきましょう。

※綱田の梨栽培の開始については、明  
治28年(1895)とする資料、明  
治初年に関八蔵が梨苗を買って植え  
たのが始まりとする資料などがあ  
り、諸説あります。



▲写真「太白梨献上記念」  
(昭和3年か、町教育委員会保管)

【問合せ】教育課 ☎(42) 1416